

第2回愛媛県新長期計画策定会議 議事概要

日時：H23.7.11 10:30~12:00

場所：県議会農林水産・建設委員会室

議事 基本構想素案について

全体を通しての意見

- ・前回に比べて、きれいで分かりやすくなっている。
- ・全体を通じて「愛媛で持てるリソースを全部使って頑張っていきましょう」とあるなかで、公有資産の利活用が全く触れられていないので、公有資産の利活用も含めてオール愛媛のリソースを全て活用するとしたら良いのでは。
- ・読んで非常に心地良い文章だが、心地よさを追求するのはこれが限界かなという感じがする。他県の「儲かる林業」など、もう少し荒削りな表現でも良いのかもしれない。
- ・例えば「儲かる林業」など、あまりはっきり書くと、森林管理の方が表に立つべきだとか、「反対」という意見が出てくる可能性もあるので、あまり難しく考えない方が良いのでは。
- ・全体的に、悪しき慣例を打開して、10年後の愛媛を目指そうということが基本だと思うが、やはり愛媛でも昔からある文化や歴史などの良いことを、形を変化させながら、継承させていくことも大切。変化ばかりだとバランスが悪い。
- ・「いきいきした愛顔」は、いいキャッチフレーズだと思うが、全体を通して自分の笑顔、一人ひとりの笑顔を守る、他者の笑顔のために自分が働くそういったところがあっても良いのではないか。

はじめに

- ・「はじめに」には、中村知事の思いが凝縮されていると思うが、中村知事の名前が入るのか。
【事務局】・未定。
- ・「はじめに」には、是非知事の名前を入れるべき。

岐路に立つ愛媛

1 時代の変革期に直面する愛媛

- ・中長期的な観点から、県の経済成長戦略 2010 や現在改定中の産業振興指針と方向性を合わせて、「産業構造の変化」という視点を入れた方が良いのでは。

(1) 縮小する日本

- ・「失われた20年」とあるのは、15年又は10年で良いと思う。

(5) 心のつながりの再認識と新たな絆

- ・同調圧力みたいなものが、あまり強く出してしまうと良くないと思う。「多様性やそれぞれの違いを認め合いながら」という表現を入れた方が良いのではないか。

2 開花が期待される愛媛の潜在力

(3) 誇れるアイデンティティ

- ・「県民球団として地域に密着して活動するプロスポーツ」とあるが、9ページには「地域に密着したプロスポーツチーム」とあるので、後者で統一して良いのではないか。

基本理念

- ・前向きな気持ちや困難の克服、逆境を乗り越えるといったところをもう少し明確に書いても良いのではないか。
- ・「激動の時代の中で、いかなる困難が眼前にあるとしても、県民に芽生えた新たな価値観からすばらしい愛顔が生まれ」の部分について、「県民に芽生えた新たな価値観」とは漠然としているので、具体的に補足するものがあれば分かりやすい。
- ・「共に歩んでいかなければなりません。」で、この「共に」とは、県民と県、行政のことだと思うが、この役割分担を少しどこかで明確にした方が良い。

愛媛づくりの方向性（新たな価値観の創造に向けた視点）

- ・「新たな価値観の創造に向けた視点」とあるが、5ページの「県民に芽生えた価値観」と矛盾が感じられるので、見直しが必要ではないか。
- ・方向性の中で、愛媛の素晴らしい自然をもう少し強調して、将来に向けての活用を加えても良いのでは。

3 愛媛コーディネートの確立

- ・「特定の地域や産業による縄張り意識を捨て去り」とあるが、縄張り意識さえ捨て去れば連携ができるのかと読み取れる。システムなどにも悪しきことがあったのではないか。この連携というのをどういうふうに進めていくのかを次の行動計画にも現れてくれば良い。

4 ニュー・フロンティア愛媛の追求

- ・「行政自らも広い視野に立って」とあるが、「行政」という言葉が他の箇所にはないので、少し気になった。

4つの愛顔づくりへの挑戦（目指すべき将来像）

- ・「あちらでは、こちらでは」と工夫されているのが見て取れた。
- ・「あちらでは、こちらでは」は、少しひっかかる。なじみが持てない。

1 活力ある開かれた産業を“創る”

- ・産学官、農商工のネットワークについて、計画の全体的な流れは、やや内にこもった繋がりという印象なので、もう少し広い繋がりを作るというニュアンスが出てくれば良い。
- ・前回、やや論調が内向き思考だという話をしたが、外向き思考の表現もいくつか入れた方が良い。
- ・「開かれた産業」では、自由貿易協定の積極的な推進を連想させてしまい、一部誤解を与えてしまう可能性があるので、「未来に挑戦する産業を創る」などとしてはどうか。
- ・「意欲ある人が自ら能力を発揮し」というところでは、「意欲ある人が自ら学び成長し」ということを入れた方が良いのではないか。
- ・新しい産業や愛媛のブランドを作り上げても、それを発信する力の強化も必要。
- ・実際、県外や海外に開かれている産業もあるので、もう少し挑戦的に、愛媛から県外、世界へ発信するという意味合いをもった書き方が良いのでは。

- ・就職の機会がないので、Uターンする人が少ないということだが、日本や世界で見ても先進的な産業などが育っていれば、県内で就職する学生も増えるのではないか。

2 快適で安全・安心の暮らしを“紡ぐ”

- ・「鉄道の架橋など」とあるが、人工構造物をイメージする言葉より「緑が豊かで快適な都市空間が形成される」としてはどうか。
- ・「地域ごとに都市機能が集積」は、「都市機能が充実」とした方が良いのでは。
- ・インフラの整備についても官民協働について少し触れられていても良いのでは。
- ・高齢者の問題について、もう少し網羅してはどうか。具体的には、愛媛県独自の医療や福祉サービスを出すくらいの勢いで書くことはできないか。
- ・「元気な高齢者がたくさんいる愛媛」というのをキャッチフレーズにしても良いのでは。その点で、医療や福祉サービスについてももう少し充実させることはできないか。
- ・資料3の結果から、切実な意見として、あたりまえの集落基盤や機能、コミュニティをどう維持していくのかということがあるので、将来像の2か3にそのニュアンスを入れてはどうか。
- ・高齢者について、若い方々と地域づくりにどう関わっていくか、そういった人材を活用して生活をどう維持していくかという点を入れては。
- ・高齢者や福祉の問題が、あまりにもさらっと書かれすぎているという印象。
- ・高齢者が増加する中で、すごく有能で経験豊かな高齢者が増えていき、また一方で、将来、福祉を担っていく人材を育ていくということも大事なので、子供と高齢者が共存してコミュニティができるというところをもう少し福祉の面で入れては。

3 未来を拓く豊かな『人財』を“育む”

- ・「豊か」だけでは人財の育みは難しいと思うので、「未来を拓く豊かで有能な人財を育む」としてはどうか。
- ・子ども以外の事（大学生）を含めるような形で書けないか。
- ・「文化」については、もう少し力を入れても良いのではないか。
- ・「芸術文化の創造」や「発信」といった部分にも力を入れていただきたい。
- ・「国際的な視野を持ち合わせた」と「愛媛の未来を担う『人財』」とが、表現として前後の整合性がうまくとれていない。「愛媛の未来を担う『人財』」の後に「世界に貢献できる人財」と入れて欲しい。
- ・「自己実現の機会の充実」とあるが、「自己実現」は、子供の教育にも使う言葉なのか気になるので、大人を中心に使うのならば、「最適なフィールドの形成や大人の自己実現の機会の充実に努める」としてはどうか。
- ・自己実現に「大人の」を入れることについては、疑問。自己実現の条件や前提を作っていくことも子ども教育の中に含まれるし、青年になると大人なのかという議論や、「大人」と書くと誰が「大人」なのかという話、そういう人は自己実現できているのではないかなど、難しい議論になると思うので、この辺はこれくらいか、もうちょっと色を付けるくらいという気がする。
- ・「人としての尊厳を守られながら」というような一文を入れてはどうか。「尊厳」が、重々しすぎるなら、「人としての個性」や「その人のあるがままの姿」、それが大切にされる愛媛県ということを入れてはどうか。
- ・プロスポーツ以外でスポーツに携わっている個人選手や特別支援の子どもたちなど、もう少し

幅広い形で述べられたら良いのでは。

- ・「人財を育む」では、何度も何度も読むが、言葉が美しすぎて、ひっかかりなく読んでしまい、余計にひっかかる感じがする。
- ・「愛媛の未来を担う子どもたちの成長と自立を地域全体でやさしく見守りながら、時に愛情を持って、思いやりの心が」とあるが、今、問われているのは、この「優しさ」や「愛情」の質であって、その点が物足りない。
- ・子どもたちは既に愛顔の愛媛づくりのメンバーであって、今、子どもたちをお客様にしていると、10年後に愛媛を継いでいけない人材になる可能性があるので、もう少し現実の視点を入れた表現を入れた方が良い。
- ・教育とは、社会総掛かりで、全体で取り組むものなので、地域づくりの視点が少し弱いのではないか。
- ・学校も地域や家庭と連携して育ていくという連携に結びつくような書き方も必要なのではないか。
- ・社会全体でというときに、文化とスポーツについては書いているが、これだけでは不十分。大人も子供も様々な体験によって得られる知恵が不足しているので、もう少し書かいた方が良い。
- ・概略図を見て、歴史や文化といったアイデンティティを潜在力としているのに対して人づくりに一気に結び付けるのは無理があるので、文化の継承について記載して、人づくりとしてまとめたら良いのでは。
- ・「未来を拓く豊かな人財を育む」では、理想論がない方が良いのではないか。理念は必要だが、人を育てるという部分については、あまり具体的な言葉ではない方が、かえって良いのではないか。
- ・老人について、健康や福祉はあるが、老人たちをいかに活用するかという視点があっても良いのでは。自己実現といったところに、老人たちが講師や生徒として入っていくといった学びなおしというものがあっても良いのでは。
- ・人財のところは、意見が集中した。この辺りは、えいやと、切る以外にないのではと思っている。そういう形で進めさせていただきたい。

4 地球環境の保全に貢献する調和と循環を“守る”

- ・「環境の意識高揚と保全拡大」とあるが、意識を高揚するのは環境ではなく環境の保全であるので、「環境保全の意識高揚と実践」と変えた方が良い。
- ・「地域住民を始め、ボランティア団体・NPOや行政機関、企業等が協力して」を最初に記載し、その上で自然環境の保全など実施する内容を記載した方が、バランスが良いのではないか。
- ・「生活環境に配慮した」や「自然環境の保全」、「生物の多様性を確保する」とあるが、「守る」や「保全」というよりは、「自然との共生」や「共生できる生活や産業」という方向性も入れて欲しい。

地域の愛顔づくりへの挑戦（地域づくりの考え方）

- ・基本方針に「地域が相互に補完し、連携・協調しながらそれぞれの実力を高め合う」とあるが、振興方策では東予、中予、南予とばらばらに書いてあるので、「相互に補完、連携・協調し」にどのようにして繋げていくのかというところを盛り込めないか。
- ・圏域の考え方で、産業などの特色については各地域で共通するものもあり、海域など広がり

持つところもあるので、もっと柔軟性を持たせた方が良いのでは。

- ・地域を3つとすることについて、トップミーティングで意見はなかったか。中予とした場合、旧柳谷村や旧美川村などの方々は、「我々は関係ないのでは」と思われるのを心配している。

【事務局】・トップミーティングで意見は出なかった。

- ・中予地域の2段目、「また」以下で、「周辺の農山漁村地域の優れた魅力や…」とし、中枢の圏域との連携といった形の中で、久万高原町などの周辺地域についての位置付けや連携が含まれた地域の振興といった形の盛り込みはしたい。
- ・中予の松山地域とそれから特に三坂峠から旧上浮穴は、全然状況が違うのは承知している。今後とも、他の地域でもそういう部分を考えていかなければいけないと思っている。
- ・基本構想と基本計画の双方の書き方が必要だと思う。
- ・中予地域については、少し記載が不足しているかもしれない。

推進姿勢（県政推進の姿勢）

2 最大の効果を生み出すネットワーク構築に向けた“連携”

- ・営利組織とNPO、大学、行政などが、お互いに強みを活かしながら、うまく連携・協働していくような仕組みづくりが非常に重要。
- ・地方分権という話があり、愛媛だけではなく、四国4県又は中四国での繋がりがあっても良いのではないか。

3 新たな政策と戦略の“創造”

- ・行政も企業でいうビジネスモデル的な感覚を導入し、ここに書かれているような新たな戦略を創造していただきたい。

計画策定の背景

2 性格と役割

- ・「県政参画」は、県民が県政に直接参画するための意欲を醸成するための計画だと取れるが、文章的に若干補足した方が良いのではないか。

4 愛媛の将来予測（2020年（平成32年推計値））

- ・32年の推計値は、現状のままではこうなるという推定値なのか、それとも、ある程度、施策をしたとしての推計値なのか。

【事務局】・脚注で政策効果を反映したものではないとしている。

基本計画について

- ・将来像で、これだけはっきりとした夢を県民に与える以上は、相当具体的な基本計画ができるのでは。
- ・今の策定体制では、中間支援系のNPO団体など、意見が拾いきにくい分野があると思うので、基本計画の策定の際には、きめ細やかにいろいろな方から意見を聴いて、活かして欲しい。

その他

- ・今後のスケジュールとして、今週の水曜日にパブリックコメントがある。修正できるところは

修正をし、パブリックコメントにかけさせていただきたい。それ以外の部分につきましては、パブリックコメント後の修正案のとりまとめまでに検討することとして、委員長に御一任させていただきたい。